

むきぼんだ花だより 8月

2018. 8. 4



ズルネ、(クズ科、ズルネ属)



ムベ、(アケビ科、ムベ属)



ムベ、(アケビ科、ムベ属)

◎ムベ(郁子、野木瓜、萹)、アケビ科、ムベ属
常緑蔓性木本植物、「不老不死」の実として古代から皇室に献上された伝説の果実です。今年の4月号でも取り上げましたが滋賀県近江八幡市では「ムベ」を栽培されているそうです。《伝説や名前の由来詳細は4月号を参照》食べると長生きすると云われ、古代から昭和50年代まで皇室に献上されてきたそうです。その後、献上は一旦途絶えたが、地元の官司さん等が「地域の伝統を取り戻そう」と、平成に入って復活させたそうです。最近ではメディアでも取り上げられて、ムベを求めて全国からのお客が後を絶たないそうです。～今年は、「むきぼんだ公園」内にも沢山のムベが結んでいます。楽しみです
ね！…★撮影月日：30,8,4, ★撮影場所：妻木山地区。



ヌスビトハギ、(マメ科、ヌスビトハギ属)



シロツブ、(シロツブ科、シロツブ属)

◎ヌスビトハギ(盗人萩)、マメ科、ヌスビトハギ属、多年草、日本が原産で、日本全土、朝鮮半島、中国に分布する。林縁や路傍、草地などに生育し、やや湿った陰地を好む印象がある。○別名：泥棒萩○名前の由来：果実が泥棒の足跡に似ると云う。牧野富太郎氏によると、泥棒は足音を立てない様に、足裏の外側だけを地面につけて歩くので、その時の足跡に似ている由。また、「盗人」が気付かない内にその種子が人に取付く性質を述べた説もある。○草丈は50～100cm程、葉は長い葉柄の先に三枚の小葉が付く3出複葉で、頂小葉は2枚の側小葉よりやや大きい、葉には細かい毛が有る。花期は7～9月、茎の先端の方に数個の細長い総状花序を伸ばす、花序には球状に3～4mmのピンク色で可愛い小花を付ける。果実は、種子1個を含む節に分かれる節果で、普通は二節、節は扁平の半円形で形は眼鏡の様である。果実の側面には赤褐色の斑紋があることが多く、その表面には細かい鉤が並んでいるために衣服などに良く着く。言わばマジックテープ式のひつつき虫です。◎：ミソナオンに似ています。
★撮影月日：30,8,4, ★撮影場所：妻木山地区



ヒヨドリバナ、(キク科、アザミ属)



ヤマハギ(マメ科、ハギ属)



3本の鬚はオスの特徴(メスには2本)です。



ゴンスイ、(ゴンスイ科、ゴンスイ属)



ムベ、(アケビ科、ムベ属)



ミソナオン、(マメ科、ミソナオン属)



◎チヂミザサ(縮笹)、イネ科、チヂミザサ属
 多年生草本。別名・異名：ケチヂミザサ、コチヂミザサ。○名前由来：葉が笹に良く似ていて、葉の縁が波打っているように見える事から。○原産：日本原産でアジア、ヨーロッパ、アフリカの温帯～熱帯地方の森林下や半日陰地に自生している。茎は細く、下部はランナーの様に地上を這う。上部は立ち上がり、分枝は疎です。草丈は10～30cm程度。葉の形状は狭卵形で、先端は尖る。8～10月頃茎頂に花序を出し、緑色の小穂を下向きに小數ずつ付ける。小穂から長い芒「ノギ」が生えていて、その表面が粘つく。また、開花時は、雌蕊の柱頭に着く白い羽毛状の毛や紫色の葯が、イネ科の花としては良く目立ちます。果実が熟すと、小穂の基部が外れ安くなり種の周りにはベタベタする粘着液をたっぷり分泌します。これが「ひつつき虫」の一種です。小穂は緑色で毛は紫色を帯び、それに粘液が着きキラキラ輝いている様子は綺麗です。しかし、後のズポンの様子を想像すると気が滅入る風景でもあります。○花言葉：強い結びつき、です。
 ★撮影月日：30, 8, 4, ★撮影場所：妻木山地区。

◎カマツカ(鎌柄)バラ科、カマツカ属、落葉小高木。
 別名：ウシゴロシ。○名前由来：材が堅く折れにくいので鎌の柄に使われたことからの名前。別名のウシゴロシは、牛が枝の間に角を入れると、抜くことができなくなる位、枝が強靱であることから。○分布：日本、朝鮮、中国、タイ。山地に普通に生え樹高5～7mになる。葉や花序の毛の有無などにより変異が多い。変種にはワダゲカマツカ、ケカマツカなどがある。葉は互生、新葉の展開と一緒に4～5月に白い小さな花(両性花)を開く。
 果実はナシ状果で7～9mmの槽円形。秋には赤く熟す。
 ○花言葉：真心、真実、愛敬。○用途：庭木、器具材、薪炭。
 ★撮影月日：30, 8, 4, ★撮影場所：洞ノ原地区東側丘陵。



【特集】かぶれる植物の種類まとめ

草木の茂る、野山を楽しく散策するには、**帽子、長そで、長ズボン**は鉄則です。万が一手足などの露出部分が「かぶれ」たり、素手で触ってしまう等、気をつけていても「草木かぶれ」を起こして仕舞うことがよく有ります。今年は、全国的に観測史上の、記録を書き換えた猛暑の夏も終わりに近付き、行楽の錦旗を迎えます。「むきばんだ公園」を中心に見る、「草木かぶれ」を起こす原因となる植物を紹介したいと思います。これ以外にも沢山あると思います。また、食べると危険な毒草や、外に、危険は動物・昆虫もいます、十分気を付けたいものです。

その①：ツタウルシ(蔦漆)、ウルシ科、ウルシ。

落葉蔓性木本、分布：北海道、本州、四国、中国、朝鮮。
 形態：葉は3出複葉。葉は楕円形で先が少し尖っている。
 有毒成分：ラツコール、ウルシオール。
 かぶれ度：☆☆☆◇ ○花言葉：頭脳明晰。
 特徴：秋になると真っ赤に紅葉するので見分ける事が出来るが、若い葉は他のツタ植物と見分けが付きにくい。
 ツタウルシは、ウルシオールとラツコールと云う有毒成分を持ち合わせており、高木のウルシ【ウルシオールのみ】よりも有毒成分が強く、**かぶれがとて強い植物です**。主なかぶれ成分は「樹液」に含まれていますので、樹液成分の多い春～夏はかぶれも強く、紅葉すると樹液も減るため多少かぶれ成分は弱まります。体質によりかぶれやすい人が有り、触ってもいないのに近づいただけでかぶれる事が有る植物です。特徴は「3枚1セット」の葉です。



ハゼノキ(ウルシ科、ウルシ属)

その③：ヤマウルシ(山漆)、ウルシ科、ウルシ属。

落葉小高木、分布：沖縄以外の日本全土。
 形態：紅葉の最も早いのがウルシ科の仲間です。
 葉は奇数羽状複葉。樹高は3～8mにmなります。
 有毒成分：ウルシオール。
 かぶれ度：☆☆☆☆ ○花言葉：触れないで、権威、
 特徴：柄から紅葉をはじめ、葉も含めて真赤に成るのでとても綺麗です。ツタウルシに比べ、かぶれの程度は軽いです。(体質によっては強くかぶれます)。樹液に触れると強くかぶれるので、道を塞いでも安易に切ってしまうと、そこから出た樹液が付いてかぶれるので触れないように注意しましょう。



ヌルデ(ウルシ科、ウルシ属)



ツタウルシ(ウルシ科、ウルシ属)

その②：ハゼノキ(樺の木)、ウルシ科、ウルシ属

落葉小高木、分布：関東以西(関西、四国、九州、沖縄)
 形態：奇数羽状複葉で9～15枚の小葉。
 有毒成分：ウルシオール。
 かぶれ度：☆☆☆☆ ○花言葉：真心。
 特徴：尖った葉が特徴で、両面無毛。ハゼノキは、ヤマウルシやツタウルシと同じウルシ科の植物ですが、これら2種類のように、葉を触っただけではかぶれないのが特徴です。眠って樹液に触れて仕舞うなどして一度かぶれると、**その後ハゼノキにかぶれ易い体質に変わって仕舞ったり、かぶれの症状がウルシよりも重篤化することが有るので注意が必要です**。ハゼノキは、元々高脂肪分の果実からとれる蠟が、木蠟(和ロウソク)、クレヨン等の原料になり、江戸時代にハゼノキの栽培が盛んに行われ、その一部が野生化したために現在でも高地で見かける理由と云われます。カラスやキツツキの好物で、種子の散布に寄与しています。俗に、「キツネノ小判」、「ねずみの小判」と呼ばれます。



ヤマウルシ(ウルシ科、ウルシ属)

その④：ヌルデ(白膠木)、ウルシ科、ヌルデ属。

落葉高木、分布：日本全土。別名：フシノキ。
 形態：奇数羽状複葉で葉の軸には翼がある。
 有毒成分：ウルシオール。
 かぶれ度：☆☆☆☆ ○花言葉：知的な、華やかな、信仰。
 特徴：果実の表面に塩味があり、鳥が好んで食べる。ヌルデは、ウルシ科の植物ですが、直接触ってもほとんど症状が出ない人がいるくらいのかぶれ度です。しかし、直接樹液に触れた場合など出る事があるので触れないのが賢明です。



カクレミノ(ウゴキ科、カクレミノ属)

その⑥：イラクサ(刺草、蓐癩)、イラクサ科、イラクサ属。

多年性植物、別名：イラクサ、アイコ、イラナ。
 分布：北海道、本州、四国、九州。
 形態：5～15cmの葉は、緑がノコギリ状で、表面に短い毛と刺毛がある
 有毒成分：ヒスタミン、アセチルコリン。
 かぶれ度：☆☆☆☆ ○花言葉：中傷、悪意、残酷、
 特徴：刺毛の基部に液体の入っている囊があり、この液体はヒスタミンとアセチルコリンを含みます。葉に触り胞囊が破れて液体が皮膚に付くと強い痛みを感じます。イラクサは、樹液等によるかぶれでなく、刺毛が折れて刺さることにより毒液が体に付き激しい痛みを感じるのです。



クサノオウ(クサノ科、クサノオウ属)

その⑤：カクレミノ(隠蓐)、ウゴキ科、カクレミノ属。

分布：本州(東北南部以南)、四国、九州、沖縄。
 形態：木が若い頃は深緑の葉は深い切れ込みが入り3～5枚に分かれています。その姿が昔の「蓐(みの)」に似ていることからカクレミノの名前が付けられました。成長し成木になると切れ込みのない葉が出るようになり、また、老木になると古い葉が紅葉するなど成長と共に葉の変化が楽しみです。カクレミノの開花時期は、6～8月で枝先に4～7cmの花枝を伸ばし小さな淡緑色の花が球状に集まって咲きます。果実は径1cm位で冬には黒紫色に熟みます。
 有毒成分：ウルシオール。
 かぶれ度：☆☆☆☆ ○花言葉：耐え忍ぶ、ずる賢い、
 特徴：日当たりがあまり良くない場所でも元気に育つ。樹液にウルシオールを含む為、体質によってはかぶれることがあります。街路樹や庭木等に植えられることもよく有りますが、知らないうちに触れてかぶれるなどはありません。



イラクサ(イラクサ科、イラクサ属)

その⑦：クサノオウ(瘡王)、クサノ科、クサノオウ属

一年生草本植物、分布：沖縄以外の日本全土。
 形態：葉は、互生で、黄色く花弁が4枚ある花を付ける。
 有毒成分：アルカロイド
 かぶれ度：☆☆☆☆ ○花言葉：想い出、枯れた望み
 特徴：葉を千切ると黄色い乳液が出てくるが、これがかぶれを起こす原因物質です。クサノオウは、古くから薬草として用いられた植物ですが、同時に毒性が強く、触れるとかぶれるだけでなく、誤食すると最悪の場合死に至るケースもある植物です。全草が有毒で、特に黄色い乳液にはアルカロイドを多く含み眠って食べると内臓も爛れてしまいます。薬用と聞いて内服して見ようとする等はとても危険です。絶対に止めましょう。



◀むきばんだ公園内▶で「かぶれる植物」を7種類取り上げてみましたがこれ以外にも身近な日常生活で接触する植物は沢山あると思います。お互が十分注意し合いながら散策を楽しみたいものにしたいですね。～おわり～

★むきばんだを歩く会★

- 指導：鷲見寛幸先生(鳥取県自然観察指導員)
- 毎月第1土曜日午前9時30分～正午
- 入会金 2000円 毎回資料代 300円 いつでも、どなたでも入会可能です
- 問い合わせ：むきばんだ応援団「むきばんだをあるく会」